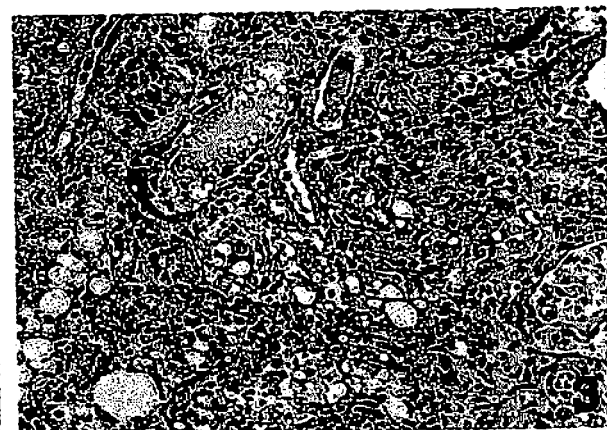
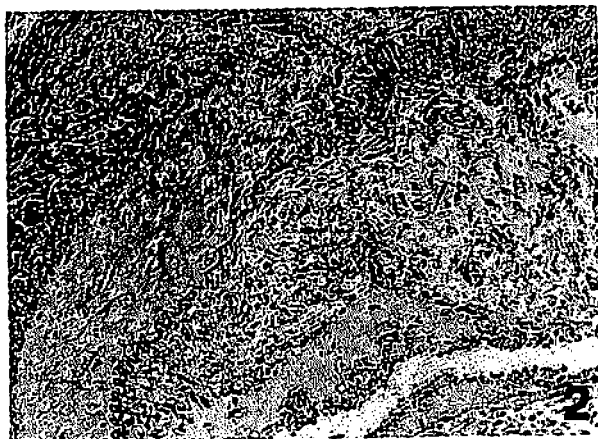


ネコの腎

東京大学農学部家畜病理学教室出題 第23回獣医病理学研修会標本No.397



動物：日本猫，雄，3年6ヶ月齢。

臨床：元氣消失，食欲廃絶で上診。WBC36,600/mm³，Ht45%，TP7.6g/dl，BUN70<mg/dl。第4日に血尿(pH9，Ca250mg/dl)，左腎の著しい腫大を触診，第6日に斃死。

剖検所見：心では右冠状動脈，左冠状動脈回旋枝，旁円錐室間枝および洞下室間枝に沿って米粒大灰白色結節を数個みとめた。腎は両側とも被膜下に広範な出血をみとめ，血液凝塊の厚さは左腎で約2cm，右腎で5～6mmであった。実質表面には小陥凹部が散在し，剖面では三層境界不明瞭で皮質から腎盂にわたり米粒大～小豆大の血液貯留部をみとめた。膀胱には凝血塊が充満。肝は淡黄褐色，軽度に硬化，小葉像やや明瞭，血量に乏しい。腸間膜には粟粒大灰白色結節散在。他の主要臓器は貧血気味であった。

組織所見：腎では腎動脈から弓形動脈における変化が主で，特に弓形動脈における内膜の水腫性肥厚とそれに

ともなう内腔の狭窄，中膜のフィブリノイド変性が顕著で，血管周囲における比較的軽度なプラズマ細胞やリンパ球の浸潤および線維芽細胞の増生がみられ(図1, HE, ×70)，内および外弾性板の弾裂，また内膜肥厚部には alcian blue陽性物質(酸性ムコ多糖類)が多量に存在した(図2, elastica van Gieson, ×130)。ほかに陳旧な間質性腎炎，尿円柱および尿細管上皮の変性などがみられた(図3, HE, ×150)。腎以外の組織では，心冠状動脈，腸間膜動脈，肝小葉間動脈，膀胱固有層細動脈等でのフィブリノイド変性，好中球やリンパ球の血管壁および血管周囲における比較的激しい浸潤など，腎病変と関連あると思われる血管病変がみられた。

以上の所見から，本例は結節性汎動脈炎と診断され，血管壁のフィブリノイド変性，水腫性変化が顕著で，結合織の増生などが比較的軽度であるところから，急性期に属するものと考えられた。